

令和3年4月16日

教職員、学生の皆様

学長（危機対策本部長） 仁科 弘重

日頃、本学における新型コロナウイルスによる感染拡大防止にご協力をいただき、ありがとうございます。

ご存知のように、全国でも、愛媛県内でも、この数週間で感染状況が一変し、感染力がより強い「変異株」と言われるものが、感染の主流となりつつあります。愛媛県では、大阪で大流行しているいわゆる「イギリス型」が9割を超えています。本日、附属病院から、この変異株による感染拡大について、下記のように現場情報の提供がありましたので、教職員、学生の皆さんと共有したいと思います。

これまでの新型コロナウイルスとは異なる「新たなウイルスによるパンデミック」と考えた方がよいほどの状況になっており、本学でも「より強い警戒レベルに移行する」ことも視野に入れています。各自、より一層気を引き締めて行動するようにお願いいたします。

愛媛大学は、愛媛県内唯一の医学部及び附属病院を持つ大学です。私たちは、愛媛大学の構成員として、率先して、新型コロナウイルスによる感染防止に取り組みたいと思います。ご協力のほどお願いいたします。

新型コロナウイルス「変異株」による感染状況について

医学部附属病院

院長	杉山 隆
中央診療施設救急部長	佐藤 格夫
感染制御部長	田内 久道

現在の愛媛県内での新型コロナウイルス感染拡大は、松山市の繁華街クラスターで一気に200名の患者が発生し、そこから市中に広がり、県内に蔓延している状況です。最近の発症例では感染経路不明のものが多く含まれ、街中のどこにでもウイルス感染の危険があります。

また、愛媛県内のウイルスは、変異の有無を調べた検体では95%が変異型であり、病床も満床に近い運用状況になっており、感染しても、入院できず、治療を受けられない可能性もあります。また、変異型は、若い人でも、基礎疾患がない人でも、急速に重症化することがあります。愛媛大学病院では、重症化した患者さんを本来の病床数を超えて受け入れており、ギリギリの治療が行われています。

自分の身を守るためには、「絶対に感染しない」行動を取る必要があります。そのためには、「可能な限り自宅で過ごす」「人との接触を極力避ける」ことが必要です。